



① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

朝ご飯の片づけを終えた蓮くんは、テレビを消して上着をおった。そして、小さなキャリアを持ってきた。

おや？ ぼくは a フジギに思う。いつもだったら「じゃあね、今日は早めに帰ってくるから」と言っただけで、出かけて行くのに。ちなみに蓮くんの「早め」は当てにならない。大学で研究をやっているんだけど、夢中になると時間を忘れてしまうんだ。

「病院に行こう、な？」

止まり木に止まっていたぼくを、蓮くんの手がすくいあげる。

そういうことか。きつと、いったん大学に行っちゃったら夜まで戻れないから、先に連れて行ってくれるんだね。でもね。行かなくていいんだよ。薬を買ってくれても、もう治らないから。そう言いたいんだけど、彼が悲しそうな顔をするってわかるから言えない。

(注1) 動物プロダクションをクビになって、この家に戻って来たのが去年の秋の終わり。あと一カ月で一年になる。あの日は、風がびゅうびゅうと落ち葉を吹き飛ばしていた。それに比べると、今日は風がない分、あんなに感じる。てくてくと蓮くんは二十分ほど歩く。始終揺れるキャリアは安定が悪くて、ぼくはちよつと酔いそうになった。

診察室に入ると、望月先生が無精ひげを片手でしよりしより触りながら、もう一方の手でキャリアのふたを開けた。そして、ぼくを指でくるんで持ち上げる。

「きれいだった青い羽、だいぶパサパサしてるね」

先生がぼくの背中をなでる。

「あまり毛づくろいしなくなりましたみたいで」

① かたじけない。蓮くんの言うとおりで。だるくて、首をひねって羽をチェックするのが面倒になっていた。

「あと、目をトトじている時間が長くなってきて」

「老化だろうなあ」

「それから、最近、言葉がもつれる、っていうか。たぶん『レンクン』って言いたいのには、違う言葉を言ったり」

ああ、再びかたじけない。蓮くんの名前もうまく言えないときがあったなんて。そして、それをよく覚えていないなんて……。

あれ、ここはどこだろう。

考え事をしてる間に、いつの間にかまたキャリアに入れられて、病院を出ていた。

先生にちゃんとさよならを言わなかったな。会うのはきつとこれが最後だったのに。

かぶせられた覆おおいごしに、カペカペと車がクラクションを鳴らし、横断歩道の音楽がひっきりなしに流れてくるのが聞こえる。そして、しばらくうつらうつらしている間に、もう居間に戻っていた。蓮くんが、キャリアからケージに移してくれる。ケージの止まり木にうまく足がからまなくて、一瞬いっしゆん落ちそうになった。でも、蓮くんは水とご飯を交換こうかんしているところだったので、②見られずに済んだ。

「動物プロダクションなんて行かなきゃよかったな。ストレスの何とか。そんなふうに考えてなかった」

彼は、パンと手で机をたたいた。

「オレ、③何が環境かんきやう情報学の専門家だ。大事な相棒の環境をちっともわかってなかった」

蓮くん。蓮くん。あのね、ストレスがどうか関係なくて、ぼくは最初から八年生きて、死ぬことに決まっているんだと思う。ほら、人間だって、生まれつき走るのが速い人と遅い人おそがいるでしょう？ 同じことだよ。生まれつき、長めに生きるか、ちよつと短めに生きるか。それは、ストレスとか関係なくて、きつと定まってるんだ。だって、CMのお仕事、ちつともストレスじゃなかったもの。老いるのは自然なこと、ぼくの体のあちこちが、そろそろ活動を終えるよ、って言うてる。病気用のご飯を食べて、それでほんの少し元気になったとしても、大きな波には抗あらがえなくて、いずれ命は終わっていかんだよ。

そんなこと言うなよ、って蓮くんは反対するかもしれないね。もつと元気なときに、蓮くんとちゃんと話し合っておけばよかったね。人間と鳥は、いや、④人間と動物は、命に対する考え方がだいぶ違うんだ。人間は頑張り屋がんばさんだからね。最後の最後まで、頑張らなきゃいけないんだね。病気になっても、身体を切ったり、ホウシヤセンとかいうので治したり、もう長く生きられないってわかっても、一日でも長くこの世で過ごすために、薬と薬と薬……自分で飲めなかったらチューブで腕うでから入れるんだよね。テレビで見たから知ってるよ。

でも、そのテレビでは教えてくれなかったよ。何のために頑張らなきゃいけないのか、ってこと。後に続く人間に、最後まで頑張る姿を見せて、勇気をプレゼントするために頑張るの？ それとも、もつと生きてほしいって、願ってる人のために頑張るの？ それだったら、ぼくにもわかるよ。人間のルールなんだって。

でも、もしかして――。

死んだ先のことかわからないから、死にたくないから頑張るの？　だとしたら、ぼく、教えてあげられるよ。死ぬのは怖くないよ。生まれたから生きて、力尽きたら死ぬんだ。それはごく当たり前のこと。

そうそう。(注2) リリアンが教えてくれたよ。野良猫は、もう寿命がないとわかると、誰にも邪魔されない場所に行つて、ひとりつきりで静かに眠るんだって。ムリに食べたり、飲んだりするのをやめて。それは、命をあきらめるとか自殺行為だとか、そういうことではなく、あくまでも生きて死にたい、っていう動物の本能なんだって。うん、わかる。鳥もそうだよ。

「パピプー、寝てるのかい？」

蓮くんがケージの外からささやいてくる。

『ネムイ』

うまくしゃべれた。

「寒くないかい？　逆にあつたか過ぎたりしないかい？　ご飯は、ちよつとは食べられるかな？」

質問がⅡ、答えられないよ。

「なあ、本当にもう弱つてきちゃったのかい？　ずっと目をとじたままだね」  
「やっとなかってくれたのかな。でも死ぬって言葉を避けてるね。」

「何か、望みはないかな？　望み？」

「こんなものが食べたいとか、見たいとか、何かほしいものとか」

「そうか、人間って、ぼくが思っていた以上に、すごい生き物なんだね。死んでいく相手をちよつとでも幸せにしたいと思うんだね。」

ぼくは考えた。何もほしいものなんて、ない。蓮くんのほかには。でも蓮くんは、とても何かをしたがっている。

『リリアン』

自分でもやっとなきとれる小さな声。蓮くんにはちゃんと届いたみたいだ。

「リリアンに会いたいのか？」

『ううんと……リリアンの……毛』

「ふわっふわのあの白い毛。あれにさわりたいのか？ わかった！ リリアンに来てもらうように頼んでみるよ！ うん、あの子もパピプーのこと、もちろん覚えてるだろうしな。会いたがってくれると思うよ。さっそく電話してみるよ」

蓮くんの声が弾んでいる。やっぱり、⑤何かやれることを探していたみたいだ。じゃあ、もっと難しいことを言っただけたほうが、蓮くんはもっとはりきったかな。インコの仲間を百羽連れてきて、とか。

「ああ、ダメだ。留守電だよ、事務所。マネージャーさんの携帯も」

「ちよっと社長のお宅まで行ってくる。一時間ぐらいで戻るからな。リリアンに聞いてくる。だから、おとなしく寝てるんだぞ」

それからほんの数分：：いや、もうちよっと時間は過ぎていたのか。突然だった。

上から羊羹の箱でも乗つけられたみたい。ぼくの体は重くなって、ぐらりと大きくゆれた。足が止まり木から離れて、ケージの床の部分に落ちた。お腹から突っ込んだけど、フシギと痛くない。ケージのすみっこに新聞紙が敷いてある。羽で探りながら、ぼくはゆっくりゆっくりとそこへ移って、腹這いになった。

だいぶ楽だ。

それでも、上からまだ箱を押しつけられているように、体が圧迫されている。つぶれそうだ。本当に何も乗っていないよね。確認したいのだけれど、まぶたもテープで張られたようになって、開かない。

蓮くん。蓮くん。

もうすぐ、ぼくはここを出て行くみたいだよ。その瞬間まで、蓮くんになでなでされたかったけれど、行っちゃったね。あと一時間、待てるかな。体を圧迫しているものが、さらにぼくをギュウギュウと締めつけてくる。

蓮くん。蓮くん。

こと、と音が鳴ったような気がした。

「パピプー！ だいじょうぶかい？ 落ちちゃったのかい？」

蓮くんの足音がドタドタと近づいてくる。蓮くんのあったかい手がぼくを包み込む。あ、重いギュウギュウが取れた。体が軽くなったよ。

「パピプー、リリアンはいなかったよ」

うん、いなくてよかったよ。死ぬ前に会いたい、なんてベタベタしたの、きつとりリアンは嫌いだ。

「もしかして…：本当にもうダメなのかい？」

指がぼくの頭を、背中を、何度もなでしてくれる。最初は少しくすぐったくて、でもだんだん感覚がなくなってくる。

「パピプー、なあパピプー。おまえは頭がいいから、生まれ変わったら人間になって、オレが（注3）来世はインコになるのもいいかもな。パピプーがちゃんとオレを見つけて、飼うんだぞ」

その話、面白いね。元氣なときに聞いてたら、ケケケケケケケケって笑ったな。

「そのときのために、オレのこと忘れないでくれよ？」

ああ、そうか。そういうことか。

やつと謎が解けた。

どうして人は、鳥と違って死ぬのを怖れるのか、ようやくわかった気がするよ。人間って、⑥たくさんの物語といっしょに生きているんだね。それをみんな持ったまま、死んでいきたいんだね。いっしょに生きた人にも、死ぬときは持っていてほしいんだね。

ぼくは、もう声が出せない。よかったと思う。だって、約束できないから。ぼくだけじゃない、たぶん他の鳥だってそうだと思う。

もしかしたら蓮くんの思い出は持っていけるのかもしれない。けど持っていけないかもしれない。

ただ、いずれにしても、ぼくは哀しくないんだ。

死ぬときは、前を見るんだ。やつと解放されて翔べる瞬間を、心から喜んで、高く高く上がっていくんだ。だってほら、

この体にずっと同じこめられてきたわけだもの。体の調子が悪くなったら、ぼくはそれに付き合わなきゃいけないかった。今はもう、その心配はないんだ。自由なんだ。

蓮くん、哀しまないで。ぼくは、会えてよかったと思ってるから。

同じこめられた体を、守ってくれて、慈しんでくれたのが蓮くん、本当にうれしかったから。

寂しくなったときはさ。もう放送は終わっちゃったけど、dログカしてあるぼくのCMを見てね。ぼくの写真を見てね。蓮くんの頭の中のぼくを、思い出してね。

ああ、そうか。

ぼくがちっとも寂しくないのは、蓮くんが寂しがってくれているおかげかもしれないね。だから前を見られるんだね。

まぶしい光が見えてきた。そこへ飛び込んでいくよ。  
蓮くん、ありがとう。  
さようなら。

(吉野万理子「青い羽ねむる」より 一部改めたところがある)

(注1) 動物プロダクション：：ドラマやコマーシャルなどに出演する動物を管理している芸能事務所のこと。

(注2) リリアン：：パピプーと同じ動物プロダクションに所属していた猫の名前。

(注3) 来世：：仏教でいう死後の世界。あの世。

(一) 波線部 a ㄱ d のカタカナを漢字に改めなさい。

a フシギ                      b ト (じて)                      c ホウシャセン                      d ロクガ

(二) 波線部①「かたじけない」の語の意味としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア    しかたない                      イ    恥はずかしい                      ウ    みつともない                      エ    ありがたい                      オ    だらしない

(三) 波線部②「見られずに済んだ」とあるが、そのような気持ちになるのは、どういうことを心配するからか。二十五字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

(四) 波線部③「何が環境情報学の専門家だ。」とあるが、このときの蓮くん的心情としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア    自分の勘かん違いに気づきすっかり意気消沈いしやうちんしている。  
イ    自分が認めてもらえないことで焦あせりを感じている。  
ウ    現実が見えていなかった自分に憤いきどおりを感じている。  
エ    くじけそうになっている自分を叱咤しつたげ激励げきしている。  
オ    何をやっていいのかわからず自暴自棄じぼうじきになっている。



【②は次のページから始まります。】

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「世間」は日本独特のものです。

「世間」とは、あなたと人間的関係や利害関係のある人たちのことです。

対抗する概念は「社会」です。「社会」は、あなたと人間的な関係も利害関係もない人たちのことです。

ご近所や会社、学校、趣味の仲間は「(A)」です。街で、偶然、肩が触れ合った相手は「(B)」です。日本人は、都会の雑踏で、肩が軽く当たったぐらいでは、いちいち、謝ったりしません。相手が「(C)」に生きる人だからです。ですが、もし、その相手が会社の同僚とか近所の知り合いの場合は、態度をaキユウヘンします。深く謝ったり、心配したり、微笑んだりします。相手が「(D)」に生きる人だからです。

西洋では、もちろん、肩が軽く当たったら必ず声をかけます。軽い謝りの言葉です(そうしない人は通常の社会に生きてない人、と見なされます)。

欧米では「世間」と「社会」という分類がなく、すべてが「社会」です。声をかける相手とかけない相手の区別がありません。キリスト教が強力になり、神以外の人々の持つ「強力なつながり・親密な集団」を消滅させたのです。人々は神の前にすべて均質な「社会」に生きる人間として、組織されました。

日本人は、駅で乳母車を一人で持ち上げて階段を昇ったり降りたりしている母親に対して、絶対と言っていいぐらい「手伝いましょうか」という声をかけません。相手が「(E)」に住む人だからです。相手が知り合いなら、もちろん、無条件で声をかけます。相手が「(F)」に住む人だからです。

欧米では、階段の前で困っている母親がいれば、すぐに「乳母車を持ちましょう」と声がかかります。全員が「(G)」に住む人なので、声をかける相手の区別がないのです。欧米で子育てしている日本人女性が「①欧米の方がどれだけ子育てが楽か」と、たまにブログに書いていたりするのは、こういう点です。

また、日本に旅行に来た西洋人が、母親が一人、駅の階段で乳母車を抱えて昇っている風景を見て「どうして!? 日本人は優しくておもしろいやりのある国民じゃないのか。だから、震災の時にbポウドウも起こらなかったのに。どうして、誰も手伝わらないんだ?」と驚くことになるのです。

日本人は「世間」と「社会」という二つの空間に生きていますと僕は思っています。メインは「世間」です。「社会」に生きていた時は、日本人はじつは、どんなふうに振る舞えばいいのか、よく分かってないのです。乳母車を抱えて階段を降り

ている人が、どんなに大変そうに見えても、どう声をかけていいのか分からないのです。

海外のパーティーのように、知らない者同士がいきなり出会い、話し始めて、友人になる、ということとは、なかなか日本人にはありません。日本人のパーティーでは、知り合いに紹介されて、または名刺を交換して、お互いの歳を知り、お互いの立場を理解して、やっと友達になれるのです。

海外で、外国人のパーティーに参加している時、突然、パーティーの主催者から日本人を紹介されたりすると、②日本人同士、じつに戸惑います。

外国人に対しては、「(注1) YOU」という言い方です。目の前の日本人に対して、どの程度の敬語で話せばいいのか混乱するのです。ぎこちなく会話しながら、お互いの名刺を交換して、自分との社会的立場や年齢の上下関係を知って、やっと日本人は安心するのです。

では、「世間」のルールを五つあげます。世間をずっと研究してきた阿部謹也氏の研究に深く教えられました。

一つ目は「cチヨウウヨウの序」です。年下は、たとえ一歳違いでも年上に従うべきだ、というルールです。「彼は僕の先輩なんだよ」という日本語の(注2)ニュアンスは英語には翻訳不可能です。

二つ目は、「共通の時間意識」です。同じ世間に住む人は、お互いが同じ時間に生きていると思っています。ですから、「これからもよろしくお願いします」という、英語に翻訳不可能な挨拶で締めくくれるのです。

日本の企業に電話して名乗ると、受付の人は無条件で「いつもお世話になっております」と答えます。こっちが初めて電話しても、そんなことは関係なく言います。お互いが同じ時間を生きている、つまり共通の時間意識を持っていると思っ

ているのです。

日本では、先週奢ってもらった時は、次に会った時、「先週はごちそうさまでした」とあらためてお礼を言うのは礼儀とされています。けれど、西洋で「先週はごちそうさまでした」と言ってしまうと、「ん？ わざわざ、先週の話と言うという事は、今週も奢ってもらいたいということか？」と思われる可能性がかなり高いです。お互いが同じ時間を生きていると思っていない、つまり、お互いが連続した共通の過去を生きている、という前提がないので、「わざわざ過去のことを言うのはどうしてだ？」と思ってしまうのです。

三つ目が、「贈与・互酬の関係」です。お中元やお歳暮を贈り、なにかのお祝いをもらえば半返し「内祝」を忘れず、知り合いや友人の家にお邪魔する時は、手土産を持参する、日本人の慣習のことです。

あなたがこれを読んでいるこの瞬間にも、海外では日本人が、「引越してきました」と隣近所にタオルだの石鹸だのクッキーだのを渡し、世界のあちこちで理解不可能の混乱を引き起こしているのです。

「なぜ、タオルをくれるのだ？ いったい、なんの目的だ？」とか「日本人は、毎日、クッキーを配るのか？」と思われると思います。

挨拶はもちろん必要です。引越して来たお知らせは大切なことです。けれど、そこで③「贈り物」をする、という文化が理解されないのです。

キリスト教では「あなたが誰かにご馳走になったら、その人にお返しをするのではなく、貧しい人や恵まれない人に返さない」と教えます。「贈与・互酬の関係」を否定するのは、世間というものの存在を認めないからです。あなたがつながるのは、世間という集団ではなく、「(X)」のみだということです。

四つ目が、「差別的で排他的」ということです。ひとつの世間に属するということは、その世間に属しない人を差別し、排他的に対応するということです。電車に一番に乗り込み、後から来る自分の仲間たちのために席を取るおばさんは、彼女が属する「世間」の中では、おもいやりのある優しい人です。けれど、おばさんの次に並んでいた「社会」の人は「私が座る順番なだけ……」と思っっています。この時、④おばさんは差別的で排他的な世間に生きているのです。

五つ目が「神秘性」ということです。世間が強く残る地域や集団には、論理的な根拠はない「しきたり」「迷信」「伝統」などがあります。そのルールに従うことが、その世間の一員になるために必要なことなのです。「うちの会社（地域・町内）はそういうやり方なんだよ」という言葉で、論理より慣習を求めます。それがどんなに非合理でも、変えません。神秘性が、その集団のdケツソクを保証するのです。そして、神秘性は「儀式性」と同じことです。神秘性を維持するためには、⑤儀式が必要なのです。

これが、「世間」の代表的な五つのルールです。

明治時代、政府は「富国強兵」政策の実現のために、「社会」という概念を強引に輸入して、eコウブしました。軍隊も教育も税制も裁判も、すべて、「世間」という村社会のルールから「社会」という国家基盤のルールに移行しなければ、実現できないからです。

けれど、上から目線で強引にfドウニユウされた「社会」という概念は、⑥この国には完全には定着しませんでした。「理屈だけ言うんじゃないよ」とか「理屈じゃあ、人は動かないんだよ」という言い方は、公的な「社会」が説得力を持たず、依然として「世間」が力を持っている証拠です。

(鴻上尚史『クール・ジャパン!? 外国人が見たニッポン』より 一部改めたところがある)

(注1) 「YOU」……英語で相手のことを指すことば。「あなた」「君」のような意味を表す。

(注2) 「ニュアンス」……ことばの表面に表れない微妙な意味合い。

(一) 波線部 a～f のカタカナを漢字に改めなさい。

a キュウヘン      b ボウドウ      c チョウヨウ      d ケツソク      e コウフ      f ドウニユウ

(二) 空欄 (A) ～ (G) には、ア「世間」、イ「社会」のいずれかが入る。それぞれに入ることばをアまたはイの記号で答えなさい。(すべて同じ記号にしてはいけない)

(三) 傍線部①「欧米の方がどれだけ子育てが楽か」とあるが、なぜそのようなにいえるのか。四十字以内で答えなさい。(句読点を含む)

(四) 傍線部②「日本人同士、じつに戸惑います」とあるが、なぜ戸惑うのか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 知らない相手に対して、どのように接していけばいいのかわからないから。

イ 相手が初対面の人か一度会ったことのある人か、記憶がはっきりしないから。

ウ せっかくパーティを楽しんでいたのに急に知らない人を紹介されたから。

エ いい機会なので友達になろうとするのだが、名刺を持っていなかったから。

オ 海外にいてほとんど日本語を使わないので、敬語の使い方を忘れてしまったから。

(五) 傍線部③「贈り物」をする、という文化」とあるが、その内容を説明している一文を本文中から探して、はじめの五字を答えなさい。(句読点を含む)

(六) 空欄 ( X ) に入るもつとも適切な一字のことばを本文中から探して答えなさい。

(七) 傍線部④「おばさんは差別的で排他的な世間に生きている」とあるが、「おばさん」のどういう点が「差別的で排他的」なのか。その説明としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 順番に並ぶ列の先頭に割り込んで自分の友だちのために席を取っている点。

イ 真つ先に電車に駆け込んで、自分の荷物を投げて席を確保しようとする点。

ウ まわりの人を気にすることなく自分の知り合いのためにだけ席を取っている点。

エ 自分の次に並ぶ人のことを考えないで、自分のためにだけ席を取っている点。

オ 整列して乗車し席を譲り合うという社会のルールをまるで考えていない点。

(八) 傍線部⑤「儀式が必要なのです」とあるが、ここでいう「儀式」の説明としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 小学校の遠足のように、みんな楽しんでながら、クラスの一員としての意識を高めるもの。

イ 中学校の入学試験のように、論理的な根拠をもって学校の一員になるための能力を測っていくもの。

ウ 高校の修学旅行のように、旅行のマナーを身につけることで、社会の一員としての素養を作っていくもの。

エ 大学の入学式のように、その学校の伝統によっておこなわれる、集団の一員になるためのもの。

オ 運動会の開会式のように、合理性を維持しつつ、集団としてのルールを尊重する心を養っていくもの。

(九) 傍線部⑥「この国には完全には定着しませんでした」とあるが、それはなぜだと考えられるか。その理由としてもつとも適切なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 世間の力が強すぎて人が社会の存在に気づかなかったから。

イ 「社会」という考え方を理解するには国全体が未熟だったから。

ウ 人々は「社会」という理屈が大きらいで、受け入れたがらなかったから。

エ 日本人はいつでも変わらないことを望んで新しいものを排除はいじょしようとするから。

オ 近代化のために上から無理やりおしつけた考え方だったから。

(十) 本文の内容と合っているものを次のア～キの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 「世間」というものが人々の生活に大きな意味を持っている国はめずらしい。

イ 「世間」とは、いつも生活をともにしている人々のことをいう。

ウ 欧米にはかつて、人はみな同じであるという考え方があった。

エ 日本人は乳母車を抱えた人が階段で困っていても助ける必要はないと考えている。

オ 日本人は「世間」を中心とした二つの空間の中で日々生活をしている。

カ 日本人は「先週はごちそうさまでした」と言うことで、次も奢ってもらおうことを期待する。

キ 引越しの挨拶にもらったタオルを西洋の人は貧しい人のために寄付をする。

【問題は以上で終わります。】

①

(八)	(七)	(六)	(五)				(四)	(三)	(二)	(一)																																								
			動物		人間					a																																								
(九)	から。	I									b																																							
											II				(じて)																																			
																				c																														
																									d																									

②

(七)	(四)	(三)	(二)	(一)	A	d	a
					B		
(八)	(五)	(三)	(二)	(一)	C	e	b
					D	f	c
(九)	(六)	(三)	(二)	(一)	E		
					F		
(十)	(六)	(三)	(二)	(一)	G		

得点	
受験番号	



② (一) a 急変 b 暴動 c 長幼 d 結束 e 公布 f 導入

(二) A・ア B・イ C・イ D・ア E・イ F・ア G・イ

(三) 見ず知らずの他人であつても困つていたらすぐに声をかけて助けてくれるから。(三十五字) ⑦ (①×7)

(四) ア ④

(五) お中元やお(歳暮<sup>せいぼ</sup>)を贈り、なにかのお祝いをもらえば半返し「内祝」を忘れず、知り合いや友人の家にお邪魔する時は、手土産<sup>てみやげ</sup>を持参する、日本人の慣習のことです。

(六) 神 ④

(七) ウ ④

(八) エ ④

(九) オ ④

(十) ア オ ⑧ (④×2)